

# 京都嵯峨芸術大学広報

## Special Issue

30年と2年目の春に

## News

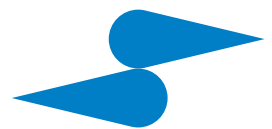
専任教職員人事／進級・卒業・修了制作展<sup>ほか</sup>

## Topics

「第21回府文化賞」受賞<sup>ほか</sup>

## Information

展覧会情報／同窓会<sup>ほか</sup>



# 30年と2年目の春に

三好郁朗 ●京都嵯峨芸術大学 学長



嵯峨美術短期大学を京都嵯峨芸術大学ならびに同短期大学部へ再編成して2年、勇躍して迎えた芸術学部第1期生もこの4月には3回生、ようやく本格的な専門教育がはじまろうとしている。全国初の「観光デザイン学科」をはじめ、四年制大学開設にあたって本学が掲げた独自の教育目標がどこまで達成できるか、大いなる期待を込めて学生諸君の成長を見守りたい。

短期大学部もまた、新しいカリキュラムになって初の卒業式を迎えることになった。本科ならびに専攻科を修了する諸君に心からお祝いを申し上げる。日本社会はいまや出口の見えない閉塞状況に落ち込んだようだが、こういう時代に社会の荒波をかぶることになる諸君に大切なことは、なにより自分を見失わないこと、自分に責任をもつこと、自分を正しく表現し続けることではないだろうか。そのためには自分の可能性を信じ、未来に期待をかけ、強く積極的に生きていく必要がある。社会の変化にしっかりとアンテナを張って、激動の中でどのように自分らしさを表現し続けるか、そのことに人生を賭けてみてほしい。厳しいようだが、それがこの時代に船出する若者たちに必要な覚悟であるように思う。

短期大学部の前身である嵯峨美術短期大学は、30年にわたって美術教育の世界で目覚ましい成果をあげ、「嵯峨美」の名を高めてきた。多くの卒業生が造形作家として、デザイナーとして、さまざまな関連分野で着実かつ独創的な仕事を続けている。芸術活動に直接かかわらないまでも、本学で育んだ美的感覚をもって、それぞれに豊かで充実した、かけがえのない人生を送ってくれている。そのことは諸君にとって心強い励ましとなるだろう。本学における優れて実践的な造形教育の伝統は、30年を経てますますその重要性を増している。しかしながら、大学、とりわけ短期大学をどまぐ環境には大変に厳しいものがある。いわゆる少子化もその一つだが、それ以上に、世界の社会・経済状況が激変するなか、若い人

たちが新たな価値観を生み出すのにふさわしい場であるかどうか、大学そのものが厳しい自己変革を迫られているのである。本学もまた、学生諸君が人生のもっとも貴重な時間を託すに足る教育機関として今後どのような展開を目指すべきか、なおしばらく模索を続けなければなるまいと思っている。

そういうわけで、本学にもこれからいろいろな変化が訪れるだろう。卒業生としてぜひ暖かく母校の発展と後輩諸君の活躍を見守っていただきたい。ヨーロッパやアメリカでは地域社会との連携とともに、卒業生による物質的、精神的支援が大学の発展を支える大きな力となっている。本学もここ嵯峨野を中心に、京都という土地柄とその歴史、その未来にしっかり密着した文化発信センターであり続けるとともに、日本各地はおろか、世界に飛び出していく卒業生諸君との連携についても、これまで以上に密接なものにしていきたいと願っている。新卒業生諸君の前途に幸多かれと祈りたい。

ところで、私事にわたるようだが、私にとっても本学に着任して2年目の春が巡ってこようとしている。この間の学園の歩みについて、少し振り返っておきたい。宿願であった四年制大学開設が学園創立30周年を期に断行され、記念式典をはじめ各種の記念行事がおこなわれたほか、四大化にともなう設備の充実、実習室の整備等が精力的に進められる一方、学園全体の将来構想が議論されるなど、大変にめまぐるしい日々が続いてきた。その間、まず特記すべきは「研究棟」の新嘗であろう。なかでも1階に設置された大学附属博物館は、すでに3度の特別展示をおこない、多くの入場者を記録している。来年度は博物館実習など教育の場としての活動もはじまる。既設の芸術文化研究所やギャラリーともども、本学における芸術文化研究の中核として、地域社会との貴重なインターフェースとして、ぜひ有効に機能させていきたい。

四年制学部の発足を機会に、全学的に機器・設備の更新、拡充が進められてきたが、学生諸君が自由に利用できる情報端末や視聴覚機器等についても、まだまだ不十分ながら相当の改善があった。情報処理演習室の端末も、ハードの進歩にあわせて全面的な入れ替えがおこなわれている。また、大学の存在とその活動を広く社会に認知してもらうため、ホームページの開設とさらなる充実が進行中である。新年度にはよりインタラクティブな「情報広場」へと進化した姿でお目見えするだろう。また、そうした広報活動の一環として新たに「大学広報」が刊行されることになった。ホームページほどの速報性こそないが、学生、保護者、教職員、同窓会、後援会等々、広く関係者、支援者の間をつなぐ媒体として、学園の運営状況、将来計画、人事往来など、さまざまな情報開示の窓口として、貴重な役割を果たしてくれるものと期待している。

言うまでもなく本学は大覚寺学園の経営になる。したがってその教育理念も、大本山大覚寺が日本文化の形成に果たしてきた歴史的役割とその遺産に学びつつ、現代社会とそこに生きる人々の心のうちに「真善美一如」の道を切り開く、そための芸術教育の実践にある。そのことを折にふれて確認するためにも、本学と大覚寺とが社会的、文化的活動において協力の実をあげることができればと願ってきたのであるが、近年それが、大覚寺境内における学生諸君の作品展示であるとか、大沢の池における草魚の生態調査であるとか、いろいろと具体的なかたちをとって実現しつつあるのは大変に喜ばしい。くわえて昨年は本学と大覚寺の共同事業として「京都嵯峨野文化サロン」が開設され、第1回企画「京都嵯峨野に見る平家物語」には多くの参加者から大変ご好評を得ることができた。

産学協同とかで、社会の側から大学の知的資産に対する関心が高まりをみせている。本学



でも、各種のコンペや地域活性化のためのイベントなど、学外活動に協力、提携を期待される事例が増加している。こうした流れに大学全体としてどう対応していくか、今後の検討課題であろう。新年度からいわゆる「生涯学習」に着手する計画も進んでいるが、大学の知的・人的資産を社会に還元しようとするこの種の活動は、単なる広報活動の域を越え、大学の社会的使命のひとつとしてぜひ取り組んでいく必要がある。

最後に、本学園ではこのたび森原堤(桂川)沿いに小規模ながら第二キャンパス用地を取得、新年度末には瀟洒な新校舎が立ち上がる予定である。ここには講義室のほか、学生諸君が自由に利用できる情報端末を設置した「学生情報スペース」を設けるとともに、すでに手狭になっている図書館書庫、閲覧室を移転したい。できれば児童図書などの充実をはかり、地域社会への開放も試みたいと思う。なお、新校舎の完成後は主に講義系の科目がそちらに移り、メインキャンパスにおける実習スペース不足にも改善がみられることになろう。新校舎の建設によって学園全体に活気が生まれ、いささか難産気味の将来構想策定にも弾みがつくことを期待している。

## 施設整備の 推進目標と課題

現在、本学園が所有している校地は、嵯峨五島町1番地をはじめとした中心校地(17,213.48)第2グラウンド(3,951.00)、西山グラウンド(26,457.50)の他、平成14年当初に購入した森原堤沿いのNTT跡地(2,175.20)を加えた合計49,797.18となっている。

また、校舎は実習棟(8,960.58)、教室棟(4,596.60)、図書館棟(4,201.51)、管理棟(2,777.76)、研究棟(1,525.53)、ギャラリー棟(981.44)をはじめ、附属実習室等の多目的な附属建物を加えた総床面積23,761.886を所有している。

これら校地校舎の総面積は、四年制大学・短期大学部に必要な大学設置基準面積を十分充たしているが、学生(四大315人、短大844人、専攻科135人、合計1,294人)1人当りの校地は、38.48(学生1人当り全国平均四大75.1、短大58.0)で全国平均を大きく下回り、また、校舎は18.36(学生1人当り全国平均四大13.4、短大17.4)で平均は上回っているものの、実習中心の大学としてはとても充分とは言えない。

従来から講義室数、実習教室面積が不足していることを指摘されており、これらを解決するため、NTT跡地へ平成16年度からの供用を目的に新校舎の建設を予定している。当該新校舎を今後の学園校舎整備計画のメインエントランスと捉えて、地下1階、地上4階建て、総床面積約4,200に図書館および書庫、学生・入試情報センター、講義・演習室等を備えた、斬新で機能的な建設計画を現在推進中である。

また、従来の敷地に学生の課外活動支援と自由空間確保のため、その拠点となる新しい施設を建設するとともに、現在の学生ホールをリニューアルし、新しい学生生活環境を整備して、大学生活の充実を図ることもあわせて計画である。

なお、四年制大学設置に伴う施設改修年次計画は、漸次進めており、平成16年度中には四年制大学所属教室、短期大学部所属教室、共有使用教室と所属区分が明確になり、それぞれの学生の教育研究環境が整備されることになる。

事務局長 / 井上 俊夫

## 専任教職員人事

### 定年退職(教員)

下記の先生方が、平成15年3月末日をもって定年退職されます。多年にわたり要職を歴任され、本学教育の発展に寄与いただきました。学園関係者一同より、御礼申しあげます。

平成14年度 定年退職教員 / 芸術学部	
造形学科(油画)	伊庭新太郎教授
観光デザイン学科(講義)	深田進教授
平成14年度 定年退職教員 / 短期大学部	
美術学科(日本画、版画)	西真教授
美術学科(洋画)	泉地保雄教授
美術学科(イラストレーション)	伊勢信子教授

なお、深田教授、泉地教授、伊勢教授につきましては、平成15年度特別任用教授として、引き続き学生の指導にあたっていただきます。

### 定年退職(職員)

下記の職員が、平成15年3月末日をもって定年退職されます。

平成14年度 定年退職職員 / 事務局	
総務課	井上俊夫事務局長

嵯峨美術短期大学創立期より30余年、学園の発展に大きく寄与され、平成9年6月からは学園理事としてもご尽力いただきました。なお、平成15年4月からは、学園の参与として、学務並びに後進の指導にあたっていただきます。

### 新規採用教員

下記の方が、平成15年4月1日付にて芸術学部へ専任講師として着任されます。

平成15年度 新任教員 / 芸術学部		敬称略
造形学科(油画)	山本直樹	
観光デザイン学科(環境デザイン)	藤木庸介	

### 客員教授

下記の先生方が、平成15年度4月1日付にて就任されます。

平成15年度 新規任用客員教授	
芸術学部	伊庭新太郎客員教授
短期大学部	山路興造客員教授

### 部長等人事

平成14年12月18日(水)の学部長選挙にて、現職の箱崎睦昌芸術学部長と黒川彰夫短期大学部長が再選されました。任期は平成15年4月1日より2年間です。

また、平成15年度の部長職が下記の通り決定いたしました。

平成15年度 学部長	
芸術学部長	箱崎睦昌教授
短期大学部長	黒川彰夫教授
平成15年度 部長	
教務部長	森本武教授
学生部長	有岡保行助教授
入試部長	増田洋助教授
企画広報室長	大竹仁子教授
総務部長	午居隆平

### 教学体制

平成15年度教学体制の責任者が、下記の通り決定いたしました。任期はいずれも2年間です。

平成15年度 学科長・部門長	
芸術学部造形学科長	平松國和教授
芸術学部観光デザイン学科長	桑田政美教授
講義部門長	大森正夫助教授
短期大学部美術・工芸部門長	北村正己助教授
短期大学部デザイン部門長	有岡保行助教授
専攻科長	吉水絹代教授

### 事務局人事

平成15年度事務局体制において、下記の通り異動並びに昇格が実施されます。

平成15年度 事務局	
事務局長	午居隆平(前総務課長)
総務課長	三上敦子(新任)
入試課長	小澤昇士(前企画広報課長)
附属施設課長	神原滋(前入試課長)
図書館課長	淀川裕美(前附属施設課長)
学生課係長	牧野光善(前入試課係長)
教務課係長	野副幸子(前総務課員)
経理課主任	桜井昭和(前総務課員)
入試課員	松本透(前経理課員)
企画広報課員	大前智(前教務課員)
図書館員	中島健三(前学生課員)

## 海外美術研修旅行 2コースを実施

### ヨーロッパ美術研修

短期大学部イラストレーション標準コース川口凱正教授の引率のもと、平成14年12月25日から翌1月8日の15日間にわたるヨーロッパ美術研修が行われ、本学の学生25名が参加した。「スカンジナビアデザイン・ドイツ・オーストリア・フランス美術・デザイン研修」をテーマに、スウェーデンからデンマークまでは列車で、次に飛行機でドイツへ渡り、バスでロマンチック街道を走りオーストリアまで。その後オーストリアからフランスへは寝台列車でという様々な交通機関を使って5ヶ国を巡るとい行程であった。

それぞれの国・都市では、日本人現地ガイドの案内のもとに美術館や博物館を中心に見学し、国や時代、背景の違いによる優れた美術作品を鑑賞した。いくつかの都市においては、全体で研修した後、個人で自由に街を見学できる時間もあり、一度行った美術館にもう一度足を運びゆっくりと気に入った作品を鑑賞するなど、それぞれが思い思いに研修できたようである。

参加した学生にとっては、この海外美術研修は、これからの研究や制作活動のいい刺激となり、また新たな興味や目的を持つきっかけとなったのではないかと期待される。



参加者...合計25名(短期大学部1回生4名、2回生18名/専攻科生2名/芸術学部1回生1名)  
訪問先...【スウェーデン】ストックホルム国立美術館、スウェーデン近代美術館、スカンセン野外博物館、ヴァーサヴァイキング歴史館 【デンマーク】デンマーク国立博物館、コペンハーゲン国立美術館、工芸博物館、ニューカースルベア博物館、デンマークデザインセンター、ルジアナ美術館 【ドイツ】ハイデルベルク城、ノイシュバンシュタイン城、ホーエンシュエンガウ城 【オーストリア】ヴェルヴェデーレ宮殿、ウィーン美術史美術館、レオパルド美術館 【フランス】オルセー美術館、マルモタン美術館、ベルサイユ宮殿、ルーブル美術館、パリ国立近代美術館

総務課 / 小川 範子

### インド美術研修を終えて

今年度のインド研修は、もともと平成14年8月に計画されていた。めまぐるしく変化する国際関係の中、半年も経てば忘れ去っているが、ちょうどインド・パキスタン紛争の余波を受け、渡航自粛勧告のために、1月の実施まで4ヶ月間延期となったのである。外から見ているとインド全国が恐ろしく緊張状態にあるように見えるが、いざ彼の地に到着し人々に尋ねてみると、全くなにか吹く風、いつもどおり日常の喧騒と人の群れに溢れている。

平成14年12月2日にデリーへ向けて出発し、クリスマスと正月を当地で迎える1日間の研修旅行となった。

私自身にとって、十数年にわたって毎年訪れている地なので、さすがに目新しさが減少したのは確かである。しかし、自分の田舎に帰るような気分で、昔に知り合った人々や子供達は大きく成長し、自分と同じように変化し成長していく姿が見え、国を隔てていても、同じ地球で同じ時間を共に過ごしているという意識をはぐみ、いつ会っても親しい友人でいられることがとても嬉しい。

私の企画したインド研修は、もちろんインドの美術・芸術・彫刻・建築といった優れた表現に触れ、悠久の文化の一端を体得することが欠かせないが、最も体験してもらいたいことは、それらを造り出した人々の日常生活とそこに根ざす宗教観である。

インドに限らず大都市の文化は似たり寄ったり、日本の都市とそうも変わらない。一般的なインド旅行は遺跡のある都市を見て回るのが常であるが、それでは本当のインドは見えない。そこには既に土のにおいは失われつつある。外国資本の導入で急速に膨れ上がった車社会は、インドの神聖な牛を都市から追い出し、名物の人力車は交通の障害として一部地域のみしか許可されなくなった。私は徐々にインドがインドらしくなくなっていく姿を見てきて残念に思っている。

研修では、首都のデリー、タージマハールのあるアグラ、沐浴の聖なる都市ベナレス、優れた彫刻を抱いた寺院のあるカジュラホなど、多くのすばらしい世界遺産を見



てまわるが、学生諸君はそれらだけでは決して満足できないらしい。最後に訪れたサンチニケタンハという地は、協定校のビジュバパラティ大学がある小さな村である。農村が点在し、昔のインドの生活がしっかり残っている。日本の学生達は村の人々や大学の学生諸君と話し合い、ピクニックをして一緒にカレーを作り、ゆったりした時間を過ごし、本当のインドを発見し満足した。また、心を表す言葉の大事さを身にしみて知ったようだ。

学生諸君の求める感性は本物であると思ひ、今年も安心した。

短期大学部日本画標準コース / 北村 正己

## 教育後援会報告

### 保護者懇談会開催

平成15年2月9日(日)、教育後援会主催の保護者懇談会ならびに制作展見学会が開催されました。保護者170名と教育後援会役員、各担当教職員が出席し、教育後援会行事の報告に続き、分野・標準コース毎に、授業や進路、学生生活全般についてグループ懇談が行われました。

懇談終了後は、学生の自主企画として開催中の芸術学部造形学科進級制作展(本学会場)と短期大学部制作展(京都市美術館)の見学会が実施されました。

## 進級・卒業・修了制作展、各学部学科で開催

### 短期大学部 第2回制作展

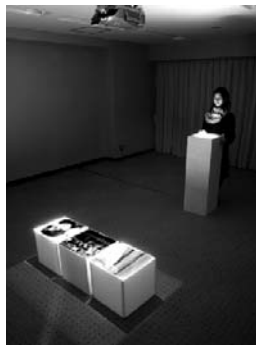
平成15年2月5日(水)~2月9日(日)の5日間かけ、京都市美術館を会場に卒業・修了制作展を開催しました。今年度は美術学科1回生の進級制作展も同時開催しましたので、約1000点近くの作品を同美術館でご鑑賞いただくことができました。

会場は伸びやかで清新な作品群に溢れ、保護者のみなさまや卒業生、高校生など多数のご来場で連日賑わいを見せました。

なお、開催初日に、学長賞2点、大学賞11点、大覚寺賞4点、教育後援会奨励賞29点、同窓会賞10点を優秀作品として選定。各受賞者は、3月20日の卒業・修了式に先立って行われる授賞式で表彰されます。



### 芸術学部造形学科2回生進級制作展「university museum」



平成15年2月5日(水)~2月15日(土)に、大学全体を会場として開催しました。

造形学科2回生の実行委員会が中心となって自主企画されたこの進級制作展は、学校という空間だからこそ感じられる作品との距離感などを通して、各分野における作品制作過程やそれぞれの作品意図を紹介しようと、「university museum(ユニバーシティ・ニアリー・イコール・ミュージアム)」をコンセプトに展開しました。

授業課題作品と、分野を越えた10組のグループによる自主制作作品が、実習室やギャラリー、スクールバスにまで会場を求めて展示され、京都嵯峨芸術大学の一期生であるという自負と、溢れ出る勢いが感じられる展覧会となりました。

### 芸術学部観光デザイン学科進級課題発表会

平成15年2月20日(木) 本学AVホールにてプレゼンテーション形式の進級課題発表会を実施しました。

2回生には、嵯峨・嵐山地域を対象とした「観光デザイン」の実践が進級課題に与えられており、嵐山保勝会・嵯峨野観光鉄道・大覚寺からの地域解説や課題提示を受けた上で、12組のグループごとに実地調査や取材を行い、エコツーリズムやイベントデザインなどの観点に立った独自の観光振興策を提案しました。

デザインと観光の融合を図る新しい分野が、目に見えるかたちで確実に形成されていく印象を受ける、有意義な発表会となりました。



## 教員の活躍

### 第21回府文化賞功労賞に箱崎教授

京都の文化振興に貢献された方へ贈られる京都府の「第21回府文化賞」が平成15年1月に決定し、長年の文化芸術活動を通して文化の向上に功労のあった方に授与される「功労賞」を本学教授の箱崎睦昌氏が受賞された。

箱崎睦昌教授は、本学芸術学部造形学科日本画分野に所属し、京都の日本画界の次代を担う『NEXT』の活動や、現在取り組み中の清水寺平成縁起絵巻の制作、後進の育成など、他方面で活躍されている。

また、本学短期大学部混合表現標準コースの非常勤講師である伊庭靖子氏が「奨励賞」を受賞された。氏は短期大学部の前身である嵯峨美術短期大学版画コースの卒業生でもある。

## 特別講座

### 平成14年度後期開催

平成14年度後期、さまざまな分野の特別講座を下記の通り開講した。

- 芸術学部主催特別講座  
 「京都エコ交通・自転車を活かすまちづくり」  
 11月7日(木) 講師/右衛門佐美佐子氏  
 「NZの観光とエコツーリズムについて」  
 11月7日(木) 講師/小林天心氏  
 「メディアアートの現在」  
 11月28日(木) 講師/竹内創氏  
 短期大学部主催特別講座  
 「オーストラリアの現代陶芸」  
 10月29日(火) 講師/Sandra Black氏  
 「ヨゼフ・ホフマンとウィーンのデザイン」  
 11月12日(火) 講師/吉村實氏  
 「インドネシア諸島の染織と民族文化」  
 11月26日(火) 講師/増山紀代氏

## 附属博物館

### 郷土玩具等の寄贈

平成14年度に、本学附属博物館へ下記の貴重な品々が寄贈された。これらは、企画展などを通して、順次公開していく予定である。

寄贈品目	数	寄贈者
天神土人形	1点	中村孝行氏
三春張子人形	5点	山路興造氏
天神土人形	1点	山路興造氏
元禄御所人形	1点	内山武夫氏
祇園祭山鉾ミニチュア	32基	倉本直治氏

また、平成14年10月1日(火)~12月22日(日)にかけて開催された第三回企画展「版画になった郷土玩具-川崎巨泉の思い-」に、全国から1000人以上の来館者があり、郷土玩具への関心の高さを示した。

## さまざまな分野で活動するクリエイターたち

### 京都広告賞

広告業界で活躍する若いクリエイターの育成をめざすコンペ「京都広告賞」で、新聞やテレビなど4部門217点の応募の中から、本学卒業生と在學生が、下記の通りグランプリならびに金賞を受賞した。表彰式は平成14年11月13日(水)京都市中京区の京都新聞文化ホールにて執り行われた。

[グランプリ・京都広告協会賞]

鈴木勝成・三浦茂樹(ともに卒業生)

[新聞部門金賞]

石原ゆめみ(短期大学部2回生)

[ポスター部門金賞]

鈴木勝成・原田雅子(ともに卒業生)

### 京都デザインピエンナーレ

第1回京都デザインピエンナーレ2002において、短期大学部から15名の入選者があり、平成14年11月22日(金)~24日(日)まで、京都市岡崎の日図デザイン博物館において作品が展覧された。京都デザインピエンナーレとは、新人デザイナーの発掘と育成、京都の産業の振興発展に寄与することを目的として企画された公募展であり、第1回は「伝統とデザイン」をテーマに、全国からグラフィック分野のデザインを募集した。本学の受賞者・入選者

[奨励賞]原田晶子、越智清志

[佳作]石原ゆめみ

[入選]奥平真梨子、遠藤愛実、平野裕子、橋田佳奈、木村彩、水口尚美、玉出茜、三田村奈津子、小笠原美智、荻野薫、坂本久美子、塩見郁恵

### かおり風景百選記念モニュメント竣工

宇治市の平等院表参道が環境省の「かおり風景百選」に選定された記念として、宇治市と地元商店街から本学に記念モニュメントのデザインが依頼されていたが、このほど完成した彫刻作品が参道入口に設置され、平成14年11月24日(日)に竣工式が行われた。設置されたのは、学内コンペで決定した、短期大学部専攻科美術専攻2回生の小村千晶さん制作による雲と茶の香りをイメージしたモニュメント「飛雲」。

### アートプロジェクト Sing2002

短期大学部インテリアデザイン標準コースの卒業生と在學生からなるグループ、ED-S ty leの企画「ANDON PROJECT in GRANSHP」が、アートプロジェクトコンペ『Sing2002』においてグランプリを受賞した。このコンペは、クリエイター応援事業として、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」が施設提供し、応募者とともに企画を実現していくプロジェクトで、平成14年は「場所の記憶」をテーマに一般公募を行った。グランプリを受賞した企画は、静岡の竹と京都の和紙を使用した全長7mの行灯7基によるインスタレーション。作品は、平成14年12月8日(日)から29日(日)までグランシップ広場に設置された。

### 美郷村石積みライトアップ誘導灯コンテスト

日本の伝統的な山村風景を残す徳島県麻植郡美郷村の石積みをライトアップするイベントにちなんで、誘導灯の作品コンテストが開催された。本学からは観光デザイン学科2回生の池田美季さんと千歳勇介さん、同学科の金氏脩介教授が、優秀賞を受賞。作品は平成15年1月27日(月)~8月31日(日)の期間、美郷ほたる館にて展示される。

### 大みそかの嵐山で [po]project

短期大学部インテリアデザイン標準コースの卒業生や在學生らによる「po(一歩)プロジェクト」が、嵯峨野の竹とロウソクを使って燭台のような作品を制作し、大みそかの夜から元旦にかけてロウソクへ点灯するイベントを行った。このプロジェクトは三年前から大みそかに実施されており、今回は希望を与えるような力を表現したという高さ4mの巨大な作品が、夜の嵐山に幻想的な光を浮かび上がらせた。

### 京都府警察機関誌の表紙絵を担当

短期大学部専攻科美術専攻2回生の戎谷晋一さんが、京都府警察の機関誌「平安」の表紙絵を平成15年1月から一年間担当することになった。

## 附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」にて

### 木村昭三退職記念展

木村昭三名誉教授の退職記念展「私の絵画作法」が、2002年10月29日(火)~11月12日(火)に開催された。風景画や静物画を中心に小品から大作までが展示されたギャラリーで、11月5日(火)にはギャラリートークが行われ、在學生らが熱心に聞き入っていた。

### 伊庭新太郎退職記念展

芸術学部造形学科油画分野、伊庭新太郎教授の退職記念展「風・光・影 そしてコトバ」が、2002年11月13日(水)~24日(日)に開催された。開催初日に行われたギャラリートークでは、制作にまつわる裏話や作品のコンセプトなどが伊庭教授から語られた。

### 吉武賢遺作展

一昨年に急逝された、短期大学部美術学科陶芸標準コース、故吉武賢助教授の遺作展が、2002年11月26日(火)~12月8日(日)に開催された。会期中の11月30日(土)には吉武助教授を偲ぶ集いが行われ、卒業生をはじめとして内外から多数の関係者が来場し、作品を前に語らった。また、この展覧会にあわせ、陶芸研究室より、カラー48ページの図録「吉武賢作品集」が自費出版された。

### マイカメラ・マイスタイル・マイフォト

教職員を中心とした写真展が、2002年12月10日(火)~20日(金)に開催された。芸術学部造形学科油画分野の宇野和幸助教授が提唱した「こだわりのカメラ、こだわりの撮影スタイル」をコンセプトに、出展者8名それぞれの視点で撮影された写真がギャラリーに並んだ。

### 退職記念展覧会「西真」展

短期大学部美術学科日本画標準コース、西真教授の退職記念展が、2003年1月21日(火)~2月2日(日)に開催された。日本画の大作や木版画を中心とした作品群を前に、1月21日(火)にはギャラリートークが行われ、ジャンルを越えて日本画や版画の在學生らが聞き入っていた。

## ■ 学生の活躍

### 創っ展 - TSUKUTTEN - ATC関西学生卒業作品展 vol.8

—昨年、昨年と続き、今年も本学短期大学部専攻科デザイン専攻13名、同美術専攻1名、美術学科インテリアデザイン11名の計25名が出演します。

ATC関西学生卒業作品展は、未来の関西デザイン界を担う若手デザイナーの人材育成と、学生同士の活発な交流を図るため、毎年春に開催されています。企画段階から学生が参加し、意見を交換しあいながら創り上げていく「手作り」の展覧会で、関西のおもだった学校の優秀な作品が一同に会します。

なお、今回のポスター・DM・パンフレットに、専攻科デザイン専攻2回生、井上直子さんの作品が採用されています。  
会期...3/19(水)~3/23(日)  
会場...大阪デザイン振興プラザ  
(ATCアジア太平洋トレードセンター内)

料金...無料  
問合せ...大阪デザイン振興プラザ事務局  
TEL 06 6615 5510

## ■ 附属博物館

### 第4回企画展「貿易扇 - 欧羅巴が求めた日本美 - 」

近世、日本から西洋に輸出された扇の展覧会を開催します。この展覧会開催にちなんで、4月末には小学生を対象としたワークショップを行う予定です。

会期...4/1(火)~6/30(日)  
時間...10:00~18:00 入場無料  
休館...毎月曜日  
問合せ...TEL 075 864 7852(直)  
museum@kyoto-saga.ac.jp

## 編集後記

本学には、従来“saga beens”という学内報がありましたが、それは学生をスタッフに入れ、主に学生を対象とした学内広報誌でした。

今回、企画広報室ができたのを機会に、三好郁朗学長から、「配布対象を広く学内外の本学関係者とし、さまざまな面での情報の共有を、さらには大学の真の開放を目指すための広報誌を」との強い要請を受けて、『京都嵯峨芸術大学広報』を発刊することになり、一年が経過しました。

今年度は初年度でもあり、3回しか発行できませんでしたが、まだまだ改良の余地

## ■ 附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」

### 平成15年度前期の活動

4月...平成14年度短期大学部制作展からの選抜展「新鮮感2003」を4月1日~13日に開催します。

5月...協定校であるインドのビシュヴァバラティー大学から版画作品を招聘し、展覧会を開催します。

6月...博物館の第4回企画展と連動した展覧会を予定しています。本学教職員による「扇」をイメージした作品群が並ぶ中、4月末開催予定のワークショップにおいて制作された小学生による作品も同時に展示する予定です。

いずれの展覧会も、詳細は附属施設課 TEL 075 864 7852(博物館直通)まで。

## ■ 京都嵯峨芸術大学同窓会

### 会報「晨」第3号

京都嵯峨芸術大学(ならびに嵯峨美術短期大学)同窓会と母校の旬な情報を提供する会報誌の「晨(あした)」がデザインを刷新。平成15年1月に発行された第3号が、制作展のおしらせとともに同窓会会員のもとへ届けられました。

なお、住所・氏名・勤務先などを変更されている方は、学生課内の同窓会事務局までご連絡ください。

TEL 075 864 7872(直通)  
FAX 075 864 7133(代表)

### オフィシャルウェブサイト

平成15年2月、コンテンツをより充実させてリニューアルオープンしました。同窓生活動報告などの最新情報のほか、多岐にわたる話題を提供します。

http://www.dousou.kyoto-saga.jp

## ■ 京都嵯峨芸術大学ウェブサイト

### 今春、リニューアルオープン

平成15年4月、本学のウェブサイトが装いも新たにお目見えします。

従来からの受験生向け入試関連情報に加え、教学や就職に関連する情報など、学生生活に有意義な多種多様な話題をオンタイムで提供します。

また、来訪されるみなさんによる情報交換の場も用意し、新しいコミュニティづくりをめざします。

http://www.kyoto-saga.ac.jp

## ■ 専任教員 展覧会情報

- 2/27~3/26 第40回記念朝日陶芸展  
会場...堺市立文化会館(大阪)  
出品者...池田八栄子 陶芸
- 2/28~3/30 ふるさとの水と名画展  
会場...京都文化博物館(京都)  
出品者...箱崎睦昌、林潤一 日本画
- 3/2~4/20 柳原睦夫と現代陶芸  
会場...高知県立美術館(高知)  
出品者...日野田崇 陶芸
- 3/18~3/23 油画研究室展  
会場...同時代ギャラリー(京都)  
出品者...伊庭新太郎、入佐美南子、宇野和幸、他 油画
- 3/20~3/29 ドローイング展  
会場...ギャラリー52(東京)  
出品者...宇野和幸 油画
- 3/25~3/30 二紀関西支部彫刻展  
会場...アートスペース上三奈(奈良)  
出品者...伊勢信子 イラストレーション
- 4/8~4/20 関西二科展  
会場...京都市美術館(京都)  
出品者...黒川彰夫、他 洋画 入佐美南子 油画
- 4/8~4/24 春季企画展  
会場...京都市美術館(京都)  
出品者...土手朋英 日本画
- 4/14~4/20 奈良平宣子個展  
会場...ギャラリー遊(佐賀)  
出品者...奈良平宣子 生活デザイン
- 4/22~4/27 京都二紀展  
会場...京都府立文化芸術会館(京都)  
出品者...泉地保雄、他 洋画
- 5/25~5/31 日本新工芸展  
会場...上野の森美術館(東京)  
出品者...吉水絹代 染織
- 5/30~6/14 泉地保雄個展  
会場...ギャラリープチフォルム(大阪)  
出品者...泉地保雄 洋画
- 6/17~6/22 第50回関西二紀記念展  
会場...大阪市立美術館新展覧会室(大阪)  
出品者...泉地保雄、他 洋画
- 6/24~6/29 二科滋賀支部展  
会場...大津市歴史博物館(滋賀)  
出品者...黒川彰夫 洋画

敬称略

## 京都嵯峨芸術大学広報

### 第3号

2003年3月20日発行

編集 京都嵯峨芸術大学 企画広報室

発行 学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学

〒616 8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地

TEL 075 864 7859

FAX 075 882 7770

http://www.kyoto-saga.ac.jp

info@kyoto-saga.ac.jp

印刷 株式会社ダイコウテック

は多々ありますが、次年度はできるだけ発行回数を増やし、情報を速やかにお伝えしたいと思っています。

今後、この『京都嵯峨芸術大学広報』が、理事、評議員、学内の教職員、学生、同窓生、教育後援会の方々、およびその他の大学関係者にとって、広く深いコミュニケーションのための場となり、相互の信頼関係を深めて、本学園発展に寄与できる機会を提供できればと願っています。

企画広報室長 / 大竹仁子